

ダブル改定とは、 〇〇である

2018年度診療報酬改定★33のポイント



著者 **川越 満**
木村情報技術株式会社
コンサナリスト® 事業部 事業部長

木村 憲洋
高崎健康福祉大学
健康福祉学部 医療情報学科 准教授

発売予定日
2018年3月末

定価 **1,800円** (税別) ※送料サービス
※書店及び、他サイトではご購入いただけません。

下記URLから登録をお済ませいただけますと、発売時のご購入がスムーズにいただけます

コンサナリスト® 川越 満 オフィシャルサイト

<https://consunalist.jp/>



2018年度は、診療報酬改定と介護報酬改定の“ダブル改定”、医療計画と介護保険事業計画の見直し、地域医療構想と在宅医療・介護連携推進事業の進展、国保財政の都道府県化、保険者努力支援制度の本格化など、数多くの医療改革が同時に実行されるため“惑星直列”になぞらえられています。

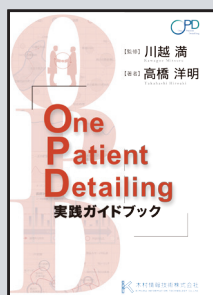
こうした医療制度の大改革は、病院・診療所や薬局の経営に大きな変化をもたらします。MRが医師と面談できる時間も減少しつづけ、これまでと同じ結果を獲得し続けるのは難しくなります。

変化はピンチであると同時に、チャンスでもあります。『ダブル改定とは、〇〇である』を読んで、新しい時代の勝ち(価値)残り戦略を思い描いてください。

はじめに ダブル改定とは、惑星直列とナッジである

01. 地域医療構想と地域包括ケアを推進する改革である
02. 医療計画と介護保険事業(支援)計画とのリンクである
03. データヘルスとコラボヘルスとのリンクである
04. 患者の状態と医療の内容の重視である
05. 基本部分と実績部分の分離である
06. ポストアキュートとサブアキュートの評価である
07. 在宅復帰率と再入院率の評価である
08. 入院支援と退院支援の重視である
09. 回復期リハと訪問リハの再編である
10. データの収集とアウトカムの重視である
11. 認知症の割合と夜間配置の評価である
12. 緩和ケアと非がん患者へのケアである
13. 在宅医療と訪問看護のメリハリである
14. 在宅医療と複数の医師等の評価である
15. DPC と診療実績データの提出の見直しである
16. 働き方改革と要件緩和である
17. チーム医療と ICT への期待である
18. 入院増と外来減狙いである
19. 療養病床と介護医療院のすみわけである
20. 医療と介護の併用モデル(有床診療所) の評価である
21. 訪問看護ステーションと自治体等の連携への期待である
22. ターミナルケアと死生観の重視である
23. フレイル対策と栄養管理の徹底である
24. 地域移行とクロザピンの包括外しである
25. ペイシャントジャーニーと国民の生活支援へのフォーカスである
26. 医療・介護施設とソーシャルキャピタル有効活用である
27. 初・再診料と未妥結減算の再編である
28. かかりつけ医と重症化予防へのコミットである
29. 遠隔診療と介護ロボットへの期待である
30. 訪問と外来の間の整理である
31. 対物業務を下げて対人業務を上げることである
32. フォーミュラリーと薬業連携の促進である
33. ポリファーマシーとアンダーユースのブームの前触れである

目次



既刊の『地域包括ケアとは、〇〇である』と
『One Patient Detailing 実践ガイドブック』も
オフィシャルサイトからお買い求めいただけます。

コンサナリスト® 川越 満 オフィシャルサイト

<https://consunalist.jp/>